

## 6月議会最終日にも多数の傍聴

### 議員報酬削減案に注目

24日の6月議会最終日にも多数の方が議会傍聴にみえました。

議員報酬を2割削減する議員提案が山下議員から提案され、その動向が注目されたと思われます。

結果は賛成4・反対16で否決でしたが、今後は「議会のあり方検討会」で議論されることになると思います。この間の経過をお知らせします。

市議会議員選挙前の3月議会にも、同内容の議案を市提案の修正案として花井議員が提案。「あり方検討会」で議論すべきとして否決されています。

そうした経緯も踏まえ、他党派からは「あり方検討会で議論できる」として、提案を見送るべきとの声が聞かれ、彼ら（山下・花井）の議員提案に賛同しない意向が6月議会前の議会運営委員会でも

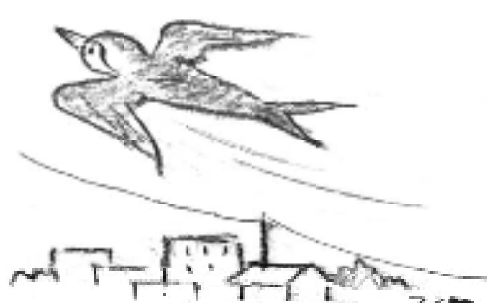
#### 議員報酬には活動経費が含まれる

6月13日日本会議個人質問後に、山下議員提案の「議員報酬2割削減案」（正式

には、議員提案第1号 尾張旭市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の特例を定める条例の制定について）について、川村議員が議案質疑を行いました。

質問は4点でしたが、答弁（山下議員）により議員報酬には、議員の活動経費が含まれていること、削減後の年額約560万円は、民間平均給与が400万円、それに活動経費160万円を加えて削減後の額とする計算が語られました。

余談ですが名古屋市の場合、議員報酬に加えて年間600万円の政務調査費があります。尾張旭市の政調費は年間15万円です。



#### 減税松本氏の発言に議会が中断

市議会最終日の24日には「2割削減案」に対し、6名の議員が討論に立ちました。討論者は、順に以下の通り。

- 武田議員・反対（フ旭）
- 松本 賛成（減税）
- 川村議員・反対（共産）
- 花井議員・賛成（あり）
- 水野議員・反対（市ネ）
- 坂江議員・賛成（愛知）

2番手で賛成討論にたった松本氏の発言に「議員報酬はこれまで下げていない。」

「副市長や教育長は天下り」など、あまりにも間違った内容が多かったため、大島議員が発言の削除を求めるよう提案、暫時休憩となり議会運営委員会（議連）が開かれました。

議連では、松本氏に対し事実に基づかないかな内容削除するように要請しました。はじめ聞き入れようとしなかった松本氏は、深夜に及ぶ作業になりかねないことを察知し、急遽、発言の削

除に応じました。

休憩中の傍聴席からは「議員報酬なんて千円下げただけなのに、えらそうに」（今春の減額は月額千円でした。）などと、大島議員を揶揄するような声が聞こえてきたので、3番手の川村議員は、過去10年ほどで議員報酬を年額100万円以上削減していることを反対討論冒頭で紹介し討論に移りました。

（川村議員の反対討論は裏面に掲載しています。）

それにしても議員報酬にまつわるこのような議論は、市民にはどのような映るのでしょうか。

ある新人議員が「思っていたよりも、ずっと忙しい」と話していました。議員の活動は際限が無く、力を入れれば入れるほど経費もかさみ、時間もかかります。

議会や議員に、市民の理解を得られるような努力が求められていることは間違いありません。

#### 教科書展示会に行ってきました

6月11日から7月5日（火）まで、文科省の教科書検定に合格した教科書を見ることができる、教科書展示会が開かれています。近場では瀬戸市立図書館で見ることができます。

6月20日に出かけてきました。教科書は図書館に入ると正面に展示してあり、場所を探すまでもありません。近くにソファもあります。1時間ほど立ち読みして感想を投書してきました。

2つの出版社の教科書は、使ってほしくないと思いました。日本が行った侵略戦争を正当化しようとする立場で描いているような印象です。もしこれが採用されたら、お父さんとしては歴史の授業を、おうちでやり直さないとけなくなりそうだな。これは困るぞ。大変だぞ。と思いながら、感想文にはうまく批判を書けず、あらためて歴史の勉強をしようと思いました。

# 議員報酬2割削減案に 対する川村議員「反対討論」

本議案は、尾張旭市の議員報酬を2割削減するという提案ですが、私が行った議案質疑と昨日の議会運営委員会での議論を踏まえ、削減後の議員報酬約560万円のうち400万円程度を生活費とし、残りの160万円を議員活動経費に充てる事が可能な費用として検討されていると受け止めております。

昨日（議会運営委員会）の議論をお聞きしていて、あらためて思いましたが、議員報酬の適正額というのは、たいへん難しい議論で論点もきりが無いように思いますが、今後、ありかた検討会で議論がされてゆくであろうことや、討論者も多数いることを考え、短めの討論にしておきたいと思えます。

今回の提案で、どうしても気になっていたのが比較対象としてあげられた民間の平均給与、年収400万円です。どうも感覚的に少なすぎます。なぜ年収400万円が平均だと言われることに無性に違和感を抱いてしまうのか、その金額と尾張旭市議会の議員報酬が比較されることに困惑してしまうのか、自分でも不思議に思っていたのです

が、先日ようやく気づきました。

年収400万円という数字は、30代前半の男性が結婚相手をお見合いで探そうとすると、かなり苦戦する水準のはずだからです。年収400万円の出所を、あらためて調べてみました。

国税庁長官官房企画課が発行している、平成21年分民間給与実態統計調査調査結果報告には、

確かに「1年を通じて勤務した給与所得者の1人当たりの平均給与は406万円」という記述があります。

（中略）  
平均給与406万円とする内容ですが、いったいなぜ私が違和感を感じるのか、同統計調査にあるグラフ（第12図）年齢階層別の平均給与を見て、ようやく納得できました。（右下掲載）

議員報酬と比較するには、406万円は不適切だと思われま

す。  
このグラフを見て、最初に私が思ったのは全年齢に渡って低い、低すぎる女性の給与です。いかに日本の女性が収入面で差別を受けているのか、一目瞭然です。議員としては、まず、これを問題にすべきだと思います。

日本の社会は、住宅や教育費の負担を家計が担う仕組みになっていますが、男性の収入が年齢を追うごとに増えてゆくことでそれを担保してきたと言えると思います。言い換えれば、男性の収入が年齢とともに増えなければ、成立しない社会構造になっているのです。

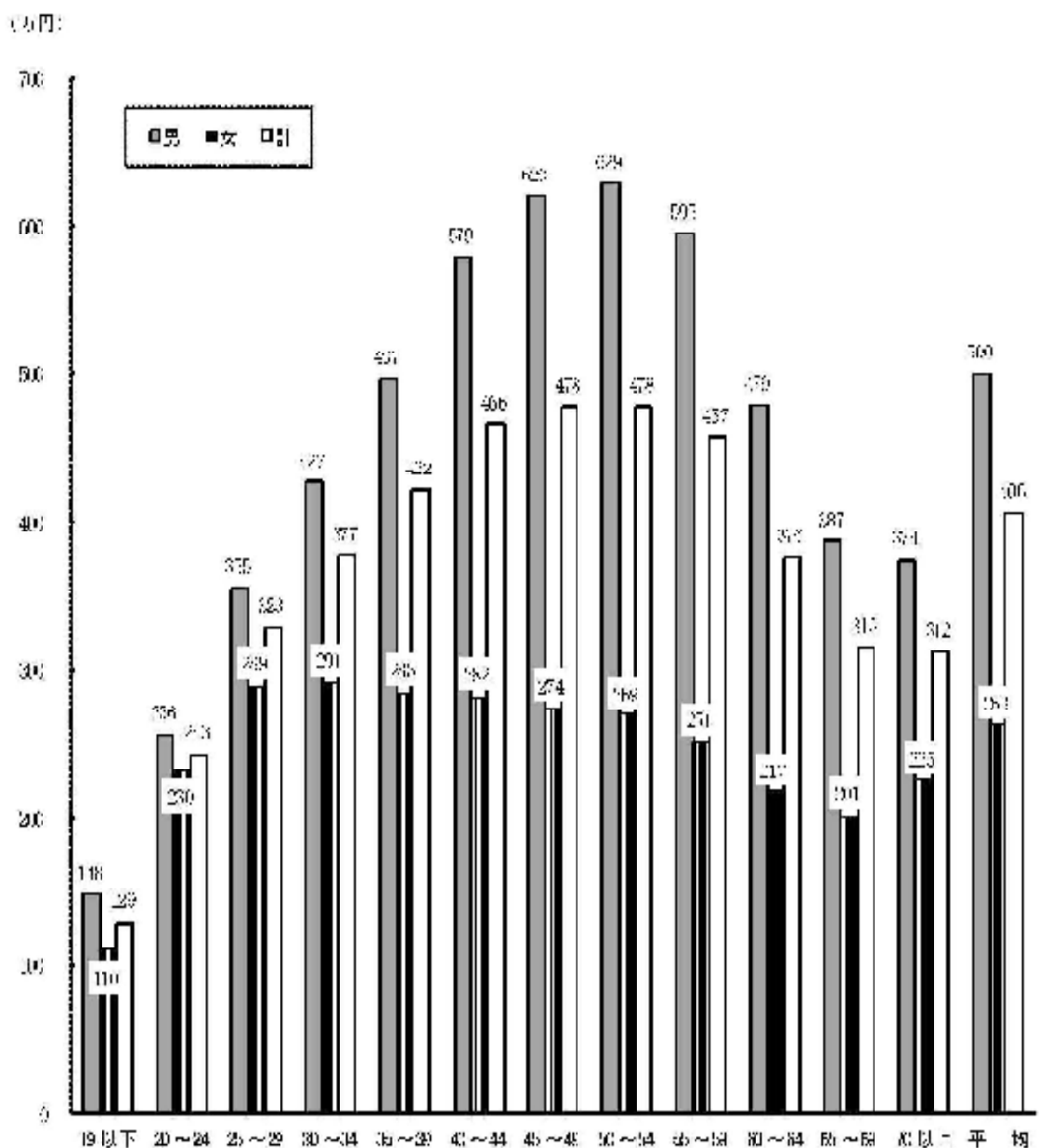
全体の平均収入が406万円だからと言って、それに合わせてしまえば、一部に被選挙権の行使に制限を受ける階層が生じると考えます。

だいたい、尾張旭市の議員の職責が、子孫を残すことが難しくなるような収入と比較されるような水準なのか？甚だ疑問です。

議員報酬と比較するのであれば、まず被選挙権を持たない25歳未満の階層を除外する必要を感ずります。

男女の賃金格差を当然視するつもりは全くありませんが、男性の平均給与をもって議論すべきではないでしょうか？

仮に、提案者の説明であった、400万の生活給、160万円の活動費とするなら、男性の平均給与500万円に160万円を足せば、660万円。これには25歳未満も含まれていますから、現在の議員報酬はほぼ安当



と言うこともできます。

どの年齢階層でも160万円の活動費とするなら、一番高額

の階層、50歳～54歳の男性の629万円を用いると789万円。  
様々な視点・角度から行政をチェックする必要が市議会にはあるのですから、どの年齢でも議員活動がしっかりできるように担保するならば、この統計から議員報酬は増額すべきだとい

う議論も成立するのではないのでしょうか？

議員報酬の削減について、議論をするように選挙前に私は議長に口頭で申し入れました。

議論をするべき市議会で、それがなされないまま、今回のように、震災だからと安易に報酬削減を行えば、議会の思考停止になってしまふのではないかと

最後にりましたが、東日本大震災の被災者支援と復興が早期に進んでゆくことを私も願っています。もし議員諸兄の皆さんで、議員報酬が多すぎるとお

考えで、生活に余裕のある方は、是非とも、市の社会福祉協議会や震災募金に、匿名でご寄付をされることをお願いして、討論